



2006年に開催が始まったSalone internazionale del Bagno（サローネ国際バスルーム見本市）は、今年で第10回目を迎えます（偶数年に隔年開催）。それに先駆け、今号のミラノ通信では、住空間の中で最もエモーショナルなスペースとして年々注目度が高まるバスルームヘスポットを当てたいと思います。

イタリアのお風呂といえば、ローマ帝国時代の公衆浴場（TERME）を思い浮かべる方も多いのではないのでしょうか。文明が発達していたローマ時代には、水道や石畳の幹線道路など、現在でも活用されている技術が多く発明されましたが、公衆浴場も最初に建設されたのが紀元前に遡るのですから、当時の人々の叡智に驚かされます。ローマ・コロッセオの近くに現存するカラカラ浴場に代表されるように、当時は階級の差別なく誰もが温かいお湯で身体を清め、モザイクで壁面を装飾するなどした心地よい空間の中でリラックスできるレジャー施設であった、と伝えられます。このような歴史を持つお国柄なのか、また、四季があり、年間の気温や湿度の変化が大きな気候だからか、イタリア人の衛生観念は他のヨーロッパ人に比べ優れているように感じられます。ただ、中世から近世にかけては、ペストなどの感染症が流行ったことから想像できるようにトイレ事情は芳しくなく、部屋数が数十もの大きなお城でさえ、当時はお手洗いがたった一つしかないほどトイレに対する意識が極めて低かったようです。

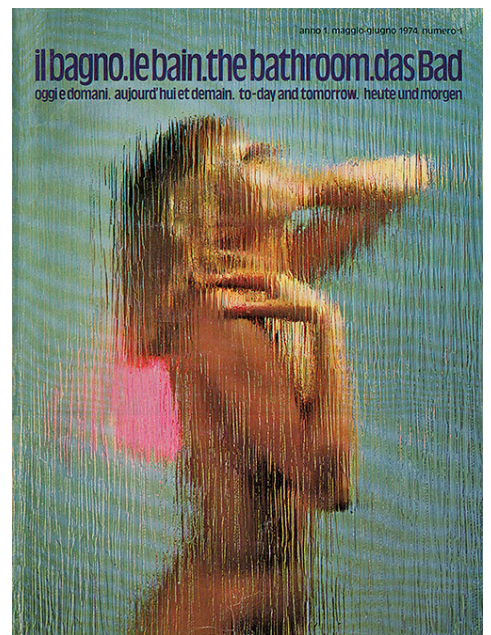
文明と技術の発展と共に時代は変わり、19世紀後半からトイレが一般家庭にも普及し始め、20世紀初頭にバスルームという概念が誕生し、70年代に現代のバスルームの原型が生まれて徐々に発展してきました。一般的なイタリアの住宅では、バスルームは、便器とビデ、バスタブあるいはシャワーボックスで構成されています。また、広い住宅や休暇のためのセカンドハウスでは、バスルームがメインベッドルームの中に配置されたゴージャスな実例も数多くあり、住居のクオリティを決定づける重要な空間とみなされています。

ROMANOIMPERO.COM



ローマ帝国時代に建造されたカラカッラ浴場内部の再現図。

ILBAGNONEWS.IT



1974年創刊のバスルーム文化専門誌「IL BAGNO oggi e domani」、創刊号の表紙。

ヨーロッパ諸国を見渡せば、イタリアだけはポルトガルと並び、どこにでも便器と並んでビデが設置されています。これは1975年に、個人住宅を設計する際の衛生上の法律として「便器、ビデ、バスタブあるいはシャワー、洗面台が設置されていること」と定められたためです。新技術や機能、あるいは省スペースを考えた場合、日本で普及しているビデ付きのトイレシステムは世界最高の優れものであり、これに叶うものはありません。しかし、これに対しイタリアは、バスルームを構成する個々の要素のデザインや、空間全体のコンセプトで勝負します。

日本人はシャワーではなくお風呂に入る習慣を持つ人が大半だと思いますが、イタリアではバスタブのない住宅も多くあり、ゆっくりと温かいお湯に浸かる文化は持ち合わせていません。ところが、近年、オリエンタルブームに乗って、ヨガやマクロビオティック、禅を含む瞑想などが知られるようになり、また、コロナ禍の影響も相まって、温泉地に行くのではなく自宅で体を癒すことのできるバスルームへ熱い眼差しが注がれているのです。

このような背景の中、今年のサローネ国際バスルーム見本市へは約200社の企業出展が予定されています。その中から、メイド・イン・イタリアにこだわり、イノベーティブなものづくりを行なっている実例を中心に紹介したいと思います。

1945年に創業のGruppo Geromin社は「トータルリビングバスルーム&ウェルネス」をコンセプトに、HAFRO社、SAUNAVITA社、GEROMIN社の3社をまとめ、それぞれが、バスタブ・シャワーボックス・ジャグジー・ミニプール、サウナ・ハمام、サニタリー・家具を担いながら、それらを組み合わせパーソナライズすることで、トータルにエモーショナルな空間をリリースしています。特にデザイン性の高い製品として、ワンタッチでシャワージェットを操作するコントロールパネルを備えたシャワーシステムIcon、サウナやハمامを兼ね備えたシャワーボックス、テラスに簡単に設置できるジャグジー付きのミニプールなどが挙げられます。これらの製品はハイエンドですが、特別な工事を必要とせず、即設置・使用できるよう設計されており、エレガントに仕上げられたシンプルなラインと素材の組み合わせにより、非日常を日常に取り入れる夢を叶えてくれるバリエーションを展開しています。

Arblu社は、環境に影響を与えない素材や製造工程、使用後の素材リサイクルなど、製品のライフサイクルを考えたものづくりを行なっています。シャワーボックス、バスルーム家具、ラジエーターなどのほか、蒸気の発生するバスルームへも施工できる防水性の高いウォールペーパーも傑出したデ

CERAMICHESANTIN.IT



時間をかけて進化を遂げた、現代のバスルームの一例。

GRUPPOGEROMIN.COM



サウナ・ハمام・シャワーを一つのキャビンに収めたGruppo Geromin社の提案。

GRUPPOGEROMIN.COM



Gruppo Geromin社のフリースタANDINGバスタブ「Avigo」、ツートンカラー仕様。



ザインです。ガラスファイバーなど完全にリサイクル可能な天然の原料からつくられており、独自の網目状の構造により、施工される壁の通気性を維持すると同時に、天然の原料からつくられているために有毒性はなく、また、カビなどの微生物の発生を抑制します。その他、壁面、シャワー床パネル、洗面ボール、家具の表面、ラジエーターなど、個々のアイテムを多彩なカラーパレットとさまざまな質感で組み合わせることのできるPietrabloシステムにより、空間のトータルコーディネートを提案しています。素材は、大理石を切断する際に生じる粉を再利用し、凝固剤と水を合わせた特許取得素材Livingstone®から製造され、衝撃に強く、抗菌性と抗カビ性に優れ、ハニカム、ストライプ、岩肌などの模様が施されたテクスチャーは、空間へ実用性の高い装飾的要素を与えます。

便器に関して近年、衛生と節水の視点からリムレスと呼ばれる形状が注目されています。従来の便器は、内側全体に水を行き渡らせるためにフチ裏に複数の水出し穴を設けるシステムですが、この新システムでは、後方上部に設けた穴から勢いよく水が押し出され、渦を巻きながら内面をなぞって流れ落ちる構造になっています。フチ裏内部の空洞から発生する水流音が排除され、水の使用量も少なくなり、何よりも内面全体が可視化されることで便器を常に清潔に保つことができる点がメリットです。各社それぞれが独自のリムレス水流システムを開発していますが、中でもデザイナーStefano Giovannoniは、2008年にTOTO社とのコラボレーションですでにリムレスを取り扱い、近年、LAUFEN社のためにデザインしたILBAGNOALESSIでは、対象を根本から見直し、本体と便座・フタを一つのボリュームとして斬新に表現しています。コレクションの一つである洗面ボールも、機能性を兼ね備えたアシンメトリーな曲線で彫刻的に美しく仕上げられ、既成概念を打ち破ったデザインとして高く評価されています。これらのデザインは、LAUFEN社が長年開発を続けている、無色の鉱物コランダムをブレンドした革新的なセラミック系素材SaphirKeramikに触発されて誕生しました。この新素材は、従来のセラミック素材の特性を維持しつつ、さらに強度と順応性を加え、7-8mmは必要であった角Rを1-2mmにまで下げることが可能にした、世界で一番薄いセラミック系素材とされています。それに伴い、素材の使用量、製造工程および運送に必要なエネルギー

ARBLU.IT



湿度の高い空間にもハイパフォーマンスを発揮する、Arblu社のウォールペーパーの提案。

LAUFEN.IT



LAUFEN社とALESSI社が共同でリリースしたILBAGNOALESSIの便器、コーヒー色バージョン。

ARCHIPRODUCTS.COM



LAUFEN社の新素材SaphirKeramikの特性を活かし、これまでにない薄さに仕上げられた洗面ボール「INO」。

ギーを減少することができ、同時に、狭い空間にも適したコンパクトなセラミック製品を実現できることから、デザイナーはもとより業界で大きな注目を浴びています。

シンプルなラインの中にかつてのブルジョア階級の洗練された家具の面影を残すAntoniolupi社の洗面台。ミニマルなビジョンやイノベーションが主役の今の時代に、デザイナーRoberto Lazzeroniがアメリカンウォールナッツを用いて現代的に再解釈したIL BAGNOは、とても新鮮な印象を与えます。Antoniolupi社は、1950年、室内装飾に使用されるクリスタルガラスの職人工房として創業。他社よりも早い時期にクオリティの高いリビングとバスルームのトータルデザインに着目し、今や世界52カ国へ販売拠点を置く企業へと成長を遂げています。こうした企業の歴史を形に表し、未来に伝えていきたいというデザイナーの思いからこの作品が生まれました。



詩的で洗練された印象を与えるAntoniolupi社の「IL BAGNO」。

これまでコンパッソ・ドーロ賞は多くのバスルーム関連デザイン作品を称えてきました。その中の一つ、デザイナーFrancesco LuccheseがFIR ITALIA社のためにデザインしたLifeSteelコレクションは、ステンレスの特性を活かし切った環境に優しい画期的なプロダクトとして高く評価された蛇口コレクションです。極めてミニマルな形状は、大理石や丸太を削り出す手法により職人たちが手がける作業工程を経て、耐久性と硬度に優れるステンレスの塊から生み出されます。その特性を活かして極限まで薄いディテールを実現し、また塊を削り出す技法のおかげで従来のデザインでは必要とされていたパーツの接合部が極限まで排除され、水回りの衛生を常に維持することのできる機能性にも優れたデザインです。



第26回コンパッソ・ドーロ名誉賞を受賞した蛇口「LifeSteel」。

ミンチョ川に近い田園地帯に拠点を置くAGAPE社は、昨年創業50年を迎えました。創業から一貫して国際的に活躍する建築家・デザイナーと協働し、建築の一部として空間に溶け込むバス関連製品を目指し、職人によるディテールの仕上げに至るまでの全製造プロセスをイタリア国内で行なっています。環境に配慮し、建築物の環境性能を評価する国際基準LEEDを取得する中、屋外でも使用できるOutdoorコレクションを通して、自然に囲まれて寛ぐバスタイムを提案しています。Agape社とBenedini Associati、Diego Vencato & Marco Merendi、Angelo Mangiarottiらがこれまでに生み出してきた息の長い製品の中から、フリースタンディングの



AGAPE社のOutdoorコレクションのバスタブ「In-Out Cemento」。

シャワーやバスタブ、洗面台などを選びコレクションとしてまとめています。そのアイテムの一つに、昨年リリースされたPatricia Urquiolaデザインの「Cenote a colonna」があります。Cenoteという単語はメキシコで「淡水の源」である自然に形成された古代の洞窟を意味するそうです。耐熱性の粘土を素材にした洗面ボールと支柱は、外側表面をざらついた素地で仕上げ、内側には発色の良いエナメルを施して光沢を与え、素材感と色彩のコントラストを描き、素朴な中に洗練されたエッセンスを感じさせるデザインです。バスルームの進化に伴い、屋内と戸外を仕切る一線が曖昧になりつつある今、思い切って自然の中へその機能のすべてを移すことで、今までにない心身の癒しが得られるに違いないでしょう。



Patricia Urquiolaがデザイン、素材感が美しいAGAPE社の洗面台「Cenote a colonna」。

#### 執筆者 略歴

池田美雪 インテリアデザイナー

武蔵野美術大学基礎デザイン学科卒

Istituto Europeo di Design 建築インテリア科卒

1994年よりミラノ在住 個人邸の改築、パブリックスペースの設計に携わったのち

2005年より クリエイティブ・コンサルティング会社（デジタルゲーム、ウェブサイト、グラフィックデザイン、アプリ）の共同経営者として活動

デザイン・アートに関するプロジェクトコーディネイト、翻訳および通訳

mikeda.it